

**JTU** きょうと教組  
日本教職員組合

# NEWS LETTER

2022年1月15日発行 No.164  
京都府教職員組合 小鍛冶 啓  
Kyoto School Staff Union  
Tel:075-252-6771  
Fax:075-252-6772  
<http://kyoto-union.net>



## 対府教委 現業部交渉（12・16）

# 業務上の安全確保を！ 安定雇用の実現を！



昨年12月16日きょうと教組現業部は、府教委と年末確定交渉を行いました。交渉に先だって府教委は、「任命権者として今回の労働災害（5月25日の京都八幡高校南キャンパス労働災害）を風化させることなく、教訓にして、重大事故が二度と発生しないよう、

学校において安全第一の体制を確立させていきたい」「府立学校における教育の推進に現業職員の皆さんの協力は不可欠。教職員が安心して職務に専念できる職場環境づくりを進めていくことが当局の責務である」との認識を改めて示し、交渉に入りました。以下交渉概要です。

### \* 給料表

給料表(技能労務職給料表)について、本年は改定を行わない。

### \* 期末・勤勉手当

期末勤勉手当については年間支給月数を0.15月引き下げて4.30月分とする。再任用職員については、0.10月引き下げとする。

会計年度任用職員である非常勤技術職員の来年度の期末手当は、常勤職員と同様に0.15月引下げ、年間2.40月とする。

### \* 50歳代後半層の昇給制度の見直し

2023年4月1日までに早期に制度改正（昇給抑制措置）を行うことと国より指導を受けている。見直していない団体は京都府以外3団体のみであり、見直しは避けられない状況にある。人事委員会勧告の内容通りに実施せざるを得ない。57歳に達した翌年度の昇給期から適用。制度設計等の内容については詳細を検討中。定年延長とセットで今後の交渉で議論したい。

**\* 給料の現給保障措置について**

2014年4月からの技能労務職給料表への切替の際の旧号級保障については、期限を区切っておらず、退職時まで適用される。

**\* 臨時的任用の技術職員について**

府立学校における教育の推進にあたり、臨時的任用の技術職員の存在無しにはやっていけない。今後とも任命権者として知恵を出し、少しでもその労苦に報いられるよう努めていく。

**— 府教委との主なやりとり —**

【組合】学校施設管理職員と非常勤（27時間）の現業職員という勤務体制への移行が将来見込まれているが、個々の職場の状況によって不安を感じざるを得ない。職場実態に合わせた移行が望ましく、無理に完成形を目指さないという当局の認識は維持していくのか。

【回答】従来と基本的な考え方は変わっていない。正規職員の方は定年まで職を保障していく。臨任の方にも、学校体制を維持していくにあたって可能な限り配置できるよう努力していく。

【組合】5月に起こった事故に関わって、管理職が安全を確保できるように管理する責任がある。2度と事故が起らないように全ての学校で対応が必要。

【回答】リスクを共有しての先取り型の安全対策は大切だと考えている。管理職の安全管理の重要性も感じている。技術職員の研修会への事務長の参加呼びかけや伝達講習の指示をしている。職場で共通理解を図りながらともに取り組んでいく姿勢が大切だと感じている。

【組合】事務長も参加しての安全対策の研修会は有効であった。研修会で提案された「危険度チェック」を職場で管理職と実施してみた。日々の作業の種類、頻度、それぞれの作業にどのような危険があるのかといったことを管理職と再認識できた。例えば照明をLEDに変えることで蛍光灯の交換の頻度が減らせることや樹木の剪定はリスクが高いことも確認できた。各学校現場でもこのような認識を共有することが大切である。

【回答】現場での安全対策は、できることから一歩踏み出すことが大切だと感じている。

【組合】複数配置は体制として必要。複数作業も行えるような定数改善は必須。

【回答】複数配置について、難しい課題もあるが、要望はしっかり受け止め、様々なできることを行っていきたい。

【組合】学校施設管理職員の職務内容への理解はおおむね進んできているが十分ではないところもある。募集要項にある職務内容で「現業」も含まれていることがわかる表現が欲しい。

【回答】学校施設管理職員は「技術職員」の中の一つである。人により受け止め方が違う部分もあるので、指摘のあった部分を留意し作業を進めていく。

【組合】現在、校務の非正規率が70%に達している。「学校施設管理職員」の職が創設されたが、非正規の職員からの合格者はなかった。頑張ってきた職員が正規採用される道が欲しかった。今後学校施設管理職員が増えていくが、現場で頑張っている者が正規で採用される道筋が望